

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修の特性・特徴】

当科は、常勤医5名と後期研修医が在籍し、23床の病床数で診療を行っています。外科手術を中心としており、県下最大級数の耳鼻科疾患を取り扱っています。分野としては、耳科手術（真珠腫性中耳炎やサイボーグ手術ともいわれる人工内耳埋め込み手術など）、鼻・副鼻腔手術（内視鏡下副鼻腔手術）、咽喉頭手術（内視鏡を用いた声帯ポリープなどに対する喉頭微細手術）等の耳鼻咽喉科領域に加え、癌拠点病院の役割を担う頭頸部外科領域として、形成外科や消化器外科、心臓血管外科と連携した遊離皮弁による再建を伴う咽頭癌、喉頭癌、副鼻腔癌などにたいする拡大手術といった多岐にわたる手術を行っています。また、救急疾患では、急性喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍といった重篤な炎症所見脳梗塞、迷路性めまいや鼻咽頭異物などの患者さんが多数来院されます。手術室で行っている耳鼻咽喉科領域の手術は年700件で、外来での小手術を加えると年1,100件に上ります。院外の医療機関からの紹介患者数が1,800件を超え、紹介率が高いのも特徴です。

常勤医の5名は日本耳鼻咽喉科学会専門医を取得しており、質の高い指導を受けることができます。また、参加医学生に年齢の近い後期研修医も親身に接していきます。

【一般目標】

- 1) 患者・社会から信頼される医師養成のために、医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

広島市立広島市民病院

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 耳鼻咽喉科領域で用いられる主要な検査について、概要、適応、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 耳鼻咽喉科領域における基本的疾患について、症候、病態、診断、治療を理解し、説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（文献検索、MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を理解し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（手術室、検査室以外でのサンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には社会人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さん、ご家族と接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 実習にあたり、常に上級医、指導医の指導・監督のもとで診療実習を実施することに留意し、報告、連絡、相談など緊密に行うこと。
- 4) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 5) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

広島市立広島市民病院

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような実地診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぎ、決して独断では行わないこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に指導医に提示すること。また、月曜日と水曜日のカンファレンスでは既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

【当科の週間スケジュール】

当科は、一般外来診療、救急診療（外来、入院）、手術、血管内治療などを、曜日に関係なく実施しており診療に関しては特に曜日での違いはない。

	月	火	水	木	金
カンファレンス	術前カンファ (17時外来)		入院カンファ 放射線カンファ (17:30 外来)		勉強会 (7:45 外来)
外来診療	○	○	○	○	○
手術		○		○	○
回診（午前）	病棟医	病棟医	病棟医	病棟医	主任部長

広島市立広島市民病院

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医・上級医による学生の実習内容の評価	50点
回診での患者提示のでき具合	10点
カンファレンスでのプレゼンテーション	10点
学生用カルテの内容	10点
ポートフォリオの内容	10点
主任部長による知識、行動評価	10点

【実習指導医】

井口 郁雄 主任部長

綾田 展明 主任部長

江草 憲太郎 部長

皆木 正人 副部長

福増 一郎 副部長

森田 慎也 (後期研修医)

日本耳鼻咽喉科学会専門研修施設

日本頭頸部外科学会認定施設